

佐賀市文化財調査報告書第36集

^{ひがし}東 ^{たか}高 ^ぎ木 遺 跡

平成3年12月

佐賀市教育委員会

発刊にあたって

この報告書は、太平不動産株式会社によるマンション建設に先がけて、佐賀市教育委員会が発掘調査を実施した、東高木遺跡の発掘調査報告書です。

今回調査を行った東高木遺跡は弥生時代、古墳時代、中世に営まれた複合遺跡です。調査面積が狭隘であったため、遺跡全体像の把握には至りませんでした。古墳時代の溝からは土師器（甕）と須恵器（甗）を良好な遺存状況で検出しました。これは古墳時代の土師器と須恵器の編年を研究する上で好資料となるものと考えます。

この報告書を、佐賀市域の歴史研究資料として利用していただけたら幸甚に存じます。

なお、調査に際しまして御協力いただきました、太平不動産株式会社並びに地元の方々に対し心から厚く御礼を申し上げます。

平成3年12月

佐賀市教育委員会
教育長 山田清人

例 言

1. 本書はマンション建設に伴い、平成2年度に発掘調査を実施した東高木遺跡の調査報告書である。
2. 調査は太平不動産株式会社の委託を受けて、佐賀市教育委員会が実施した。
3. 調査地の所在及び規模等は以下のとおり。

遺跡登録番号	4028、5057	遺跡略号	HTG
調査地	佐賀市高木瀬東2丁目395-4, 6, 9, 10	開発面積	2,484m ²
調査対象面積	300m ²	調査実施面積	300m ²
遺跡調査番号	02022	調査期間	平成3年2月12日～ 平成3年2月19日

4. 発掘調査及び整理作業・報告書作成の分担は以下の通り。

表土除去	太平不動産株式会社
全体遺構実測	新栄地研工業有限会社
遺構写真	福田義彦
個別遺構実測	福田義彦
遺物復元	野中須矢
遺物実測	野中須矢
製図	野中須矢

5. 調査・整理記録類及び出土遺物は、佐賀市文化財資料館（本庄町大字本庄1121番地）で一括保管している。巻末の収藏品目録を参照されたい。
6. 本書の執筆・編集は福田義彦が行った。

目 次

I. 序説	1	III. 調査の概要	3
1. 調査に至る経過	1	IV. 調査の記録	3
2. 調査の組織	1	1. SD012溝	3
II. 遺跡の位置と環境	1	2. 遺物	6
1. 遺跡の位置	1	3. まとめ	9
2. 歴史的環境	1		

I. 序 説

1. 調査にいたる経過

平成2年11月9日付で太平不動産株式会社から、文化財保護法第57条の2に基づき埋蔵文化財発掘届が提出された。その内容は、開発面積2,484㎡、開発目的は分譲マンション建設であった。この届出に基づき、平成2年12月15日から17日にかけて埋蔵文化財確認調査を実施した。その結果、弥生時代から中世にかけての遺構・遺物を検出し、開発面積2,484㎡中300㎡の遺跡の広がりを確認した。

この調査結果に基づき、佐賀市教育委員会と太平不動産株式会社は、本調査について協議を行った。調査は平成3年2月12日に開始し、2月19日に終了した。出土遺物・調査記録の整理作業及び報告書作成は、平成3年4月から9月までの間、佐賀市文化財資料館で行った。

2. 調査の組織

調査主体 佐賀市教育委員会

[平成2年度]

社会教育課

社会教育課長 古川靖邦

課長補佐兼文化係長 中野和彦

事務吏員 甲木亮一（庶務担当）

福田義彦（調査担当）

木島慎治（試掘担当）

[平成3年度]

文化課

文化課長 中野和彦

文化係長 野口義通（庶務担当）

事務吏員 甲木亮一（庶務担当）

文化財係長 福田義彦（報告書担当）

発掘作業員 園田日出子・西村美智子・新郷寿美江・江下和子・宮地富士子・園田麗子・
江口ヒロ子・酒見節子・貞包久枝・山田久子・千住照代

調査協力 太平不動産株式会社・佐賀県教育委員会・地元各位

II. 遺跡の位置と環境

1. 遺跡の位置

今回発掘調査を実施した東高木遺跡は、佐賀市高木瀬東2丁目395-4、6、9、10にあって、標高5mを測る水田に所在する。周辺は宅地化が進み、農地は本調査地周辺の約20,000㎡にすぎない。農地のほとんどが水田であり、畑地はそこからの比高約1mのものがわずかに点在する。

2. 歴史的環境

高木瀬町は佐賀市域中部では、比較的遺跡密度が高い地域である。その状況を佐賀県遺跡分布地図で概観すると、国道263号沿線に南北につらなる様相を呈する。これは、市道路沿線が周

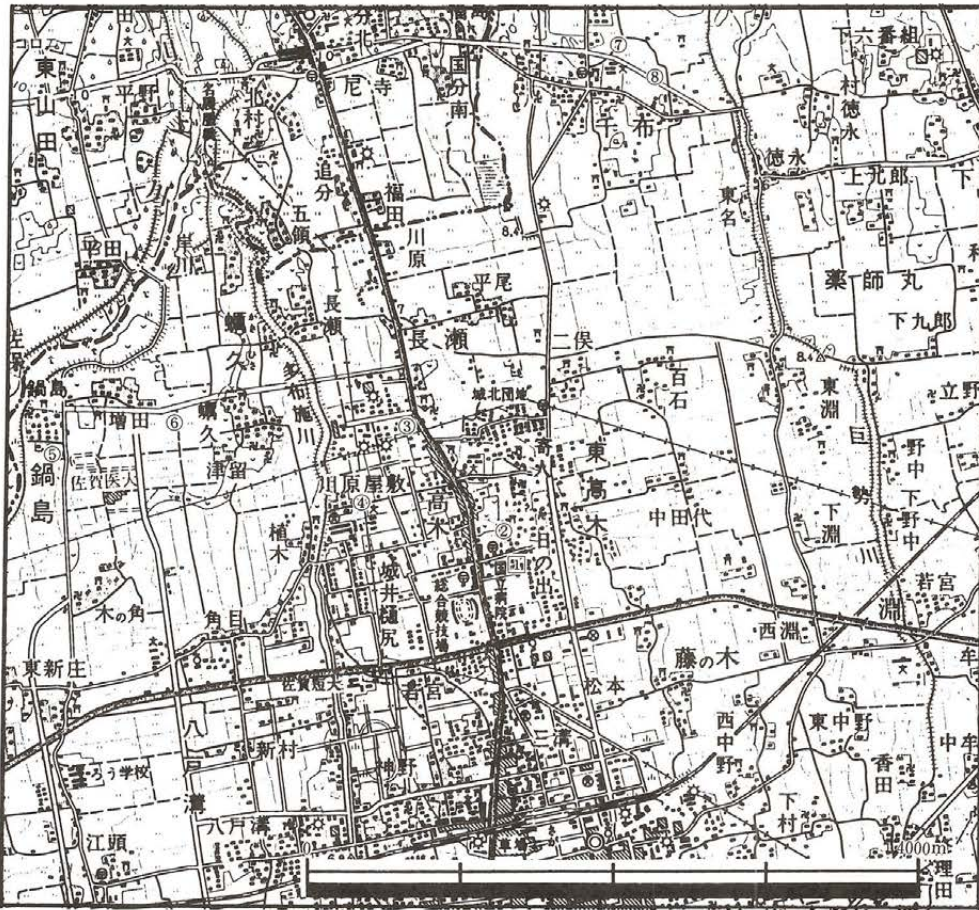


Fig. 1 東高木遺跡周辺主要遺跡分布図 (S = 1/50,000)

- ①東高木遺跡 ②高木城跡 ③佐賀工場団地内遺跡 ④銅矛出土地点
 ⑤鍋島本村南遺跡 ⑥増田遺跡 ⑦東千布遺跡 ⑧久富遺跡

囲に比して僅かにではあるが高くなっていることの証左であるものと言える。遺跡は、弥生時代から中世に及ぶものであるが、遺跡分布図を見るかぎりでは中世の遺跡が多い。しかし、実際調査された遺跡は少ない。以下に現在までの調査例や、特筆すべき出土遺物の概要を記す。

高木城跡 (確認調査：昭和53年度及び平成2年度)

市道高木・東高木線の北側に広がる農地約10,000㎡を対象に調査を実施した。その結果、鎌倉時代の所産と考えられる遺物・遺構を検出した。高木城そのものの遺物・遺構とは断定できなかったが、遺物のもつ特徴から見て高木城が存続した時代とほぼ合致するので、この調査区も城域であったものと推定する。なお、この地点は遺跡周辺見取図中のNo.2の部分である。

佐賀工場団地内遺跡 (本調査：昭和63年度)

本調査地点の北方約800mに位置する。国道263号バイパス建設に伴い1,500㎡の調査を実施し

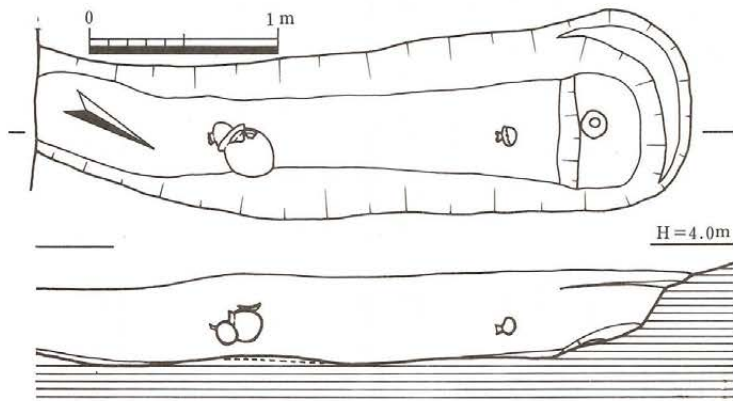


Fig. 3 S D012溝実測図 (1/20)

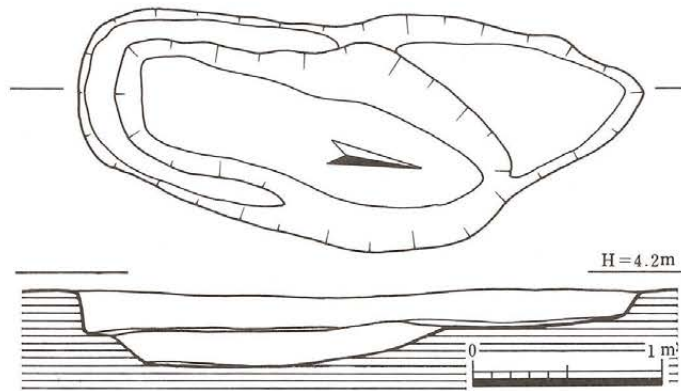


Fig. 4 S K005土壙実測図 (1/20)

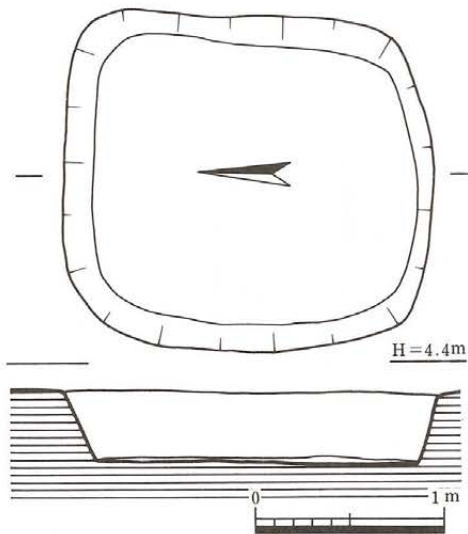


Fig. 5 S K008土壙実測図 (1/20)

土師器 (甕・高杯)・須恵器 (甗) などがある。遺存状況が良く、一括遺物と考える。

S K005土壙

調査区中央にある。上面の平面形は不定形を呈するが、元来隅丸長方形を基調とした土壙と、図中右上部の不定形土壙が切れ合っているものである。切合関係は不明、遺構本体の東西軸2.4m、南北軸1.16m、中心部の深さ0.38mを測る。遺構は淡茶褐色砂層に掘り込まれ、底面付近は青灰色砂まじり土に至る。

埋土は2層に大別でき、上層淡褐色砂まじり土、下層青灰色砂まじり土から成る。遺物は土師器細片を3

～4点検出したが、いずれも時期を示す特徴を残していない。埋土の色調や土器片の胎土から判断すると、概ね中世の所産と考える。

S K008土壙

調査区中央北寄りに位置する。上面の平面形は隅丸方形を基調としたものである。南北軸1.98m、東西軸1.8m、深さ0.36mを測る。遺構は淡茶褐色の砂層 (地山) に掘り込まれ、床面はほぼ平坦で壁は比較的角度をもって立ち上る。床面は青灰色粘土まで達している。

埋土は3層に大別され、上層淡褐色砂まじり土、中層淡灰黒色砂まじり土、下層暗青灰色土から成

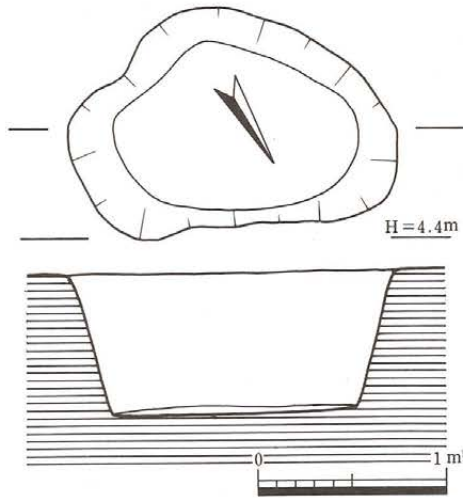


Fig. 6 SK009土壌実測図(1/20)

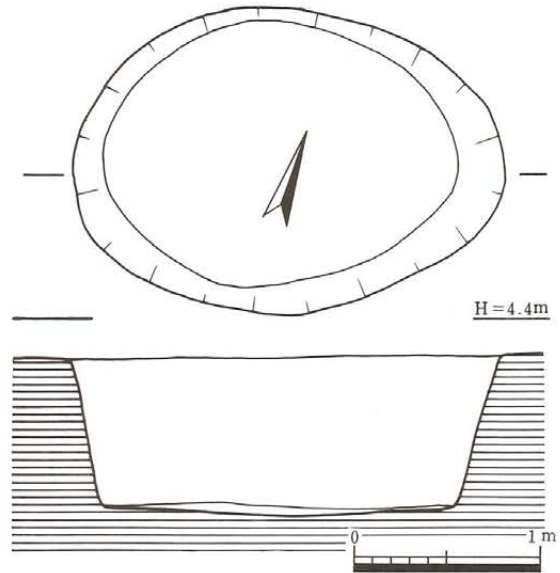


Fig. 7 SK010土壌実測図(1/20)

る。遺物は中世の所産と考えられる土師器小片を微量検出した。

SK009土壌

調査区中央北寄りにある。上面の平面形は不定形を呈し、長軸1.76m、短軸1.16m、深さ0.74mを測る。遺構は茶褐色砂層の地山に掘り込まれ、底面では青灰色粘土層に至る。底面は平坦で壁は角度をもって立ち上る。

埋土は掘り込み下0.2mが淡茶褐色土、その下層が淡暗青灰色粘土。出土遺物は土師器細片を微量検出した。

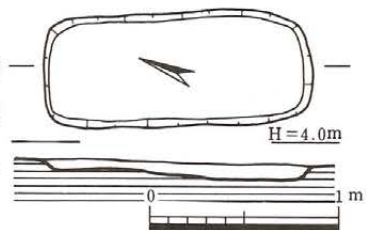
SK010土壌

SK009土壌の西側にあり、上面の平面形は楕円形を基ずる。長軸2.2m、短軸1.44m、深さ0.84mを測る。遺構は茶褐色粘土と砂とが混在している地山に掘り込まれ、底面は淡青灰色粘土に達している。底面は緩やかな起伏があり、壁は角度をもって直線的に立ち上る。

埋土は3層から成り、上層から茶褐色砂層、淡灰黒色粘質土、淡青灰色土となっている。出土遺物は土師器細片、獣骨片を検出。

SK011土壌

調査区の西寄りにあってSD015溝を切る。上面の平面形は隅丸長方形を呈する。南北軸14.2m、東西軸0.6mから0.8mを測る。底面は緩やかな起伏をもち、壁は比較的なだらかに立ち上る。



埋土は淡黒褐色を呈し、砂粒を多く含む。出土遺物はな Fig.8 SK011土壌実測図(1/20)

かったが、埋土の色調や他遺構との切合関係から考えて中世の所産である。

形状から土壇墓の様相を呈しているが、墓である可能性を示す資料は得られなかった。

S K022土壇

調査区の北端にある。上面の平面形は不定形を呈し、Fig. 9 S K022土壇実測図（1/20）長軸0.88m、短軸0.56m、深さ0.1から0.16mを測る。茶褐色で粘性に富む地山に掘り込まれ、底面には緩やかな起伏がある。

埋土は淡黒褐色を呈する。出土遺物には弥生器片（甕）、その他細片を少量検出した。

2. 遺物

(1) S D012溝出土遺物 (Fig. 10)

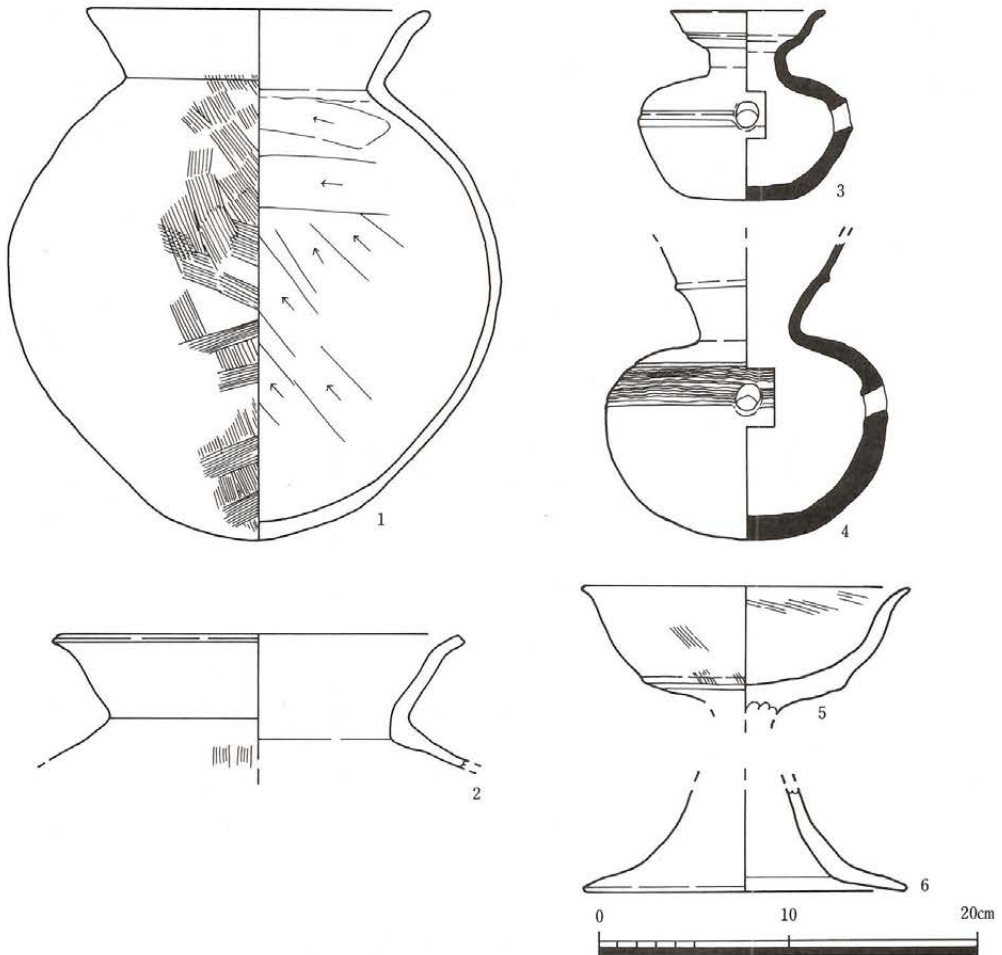


Fig. 10 S D012溝出土遺物実測図（1/4）

1は土師器甕。ほぼ完形。口径18.2cm、器高28.4cm。底部は丸底で、最大径を胴部に有する。主たる器面調整は口縁部ヨコナデ、胴部外面ハケ目、内面ヘラケズリによる。2も土師器甕。復元口径21.2cm。口唇部につまみあげの手法がわずかに残る形状を呈する。調整はヨコナデ。ハケ目、ナデによる。3は須恵器甕。完形品である。口径8.0cm、器高10.0cm、胴部最大径11.3cm。穿孔径1.4cm。頸部は直立気味に短く立ち上り、口縁部は緩やかに外反する。4も須恵器甕。口唇部をわずかに欠く。残存器高15.8cm、最大径は胴部中央にあり、14.9cmを測る。穿孔は径1.4cm、胴部外面には1.4cmの幅でカキ目が施されている。5・6は土師器高坏の坏部と脚部。同一個体かどうかは不明。5で口径17.0cm、6で脚径17.0cm。主な調整はナデ、ヨコナデ。

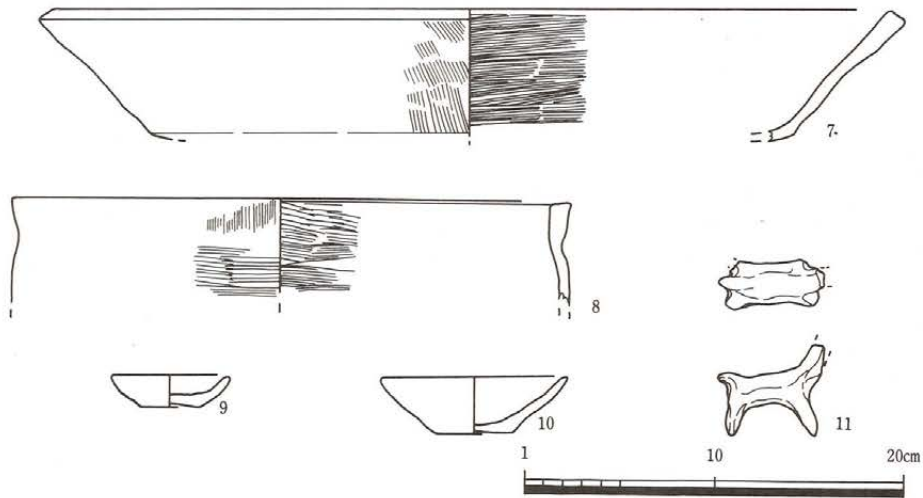


Fig. 11 S D015溝出土遺物実測図 (1/4)

(2) S D015出土遺物 (Fig. 11)

7・8は土師器鉢。7は復元口径44.0cm、残存器高6.3cm、8で復元口径28.0cmを測る。7は底部をわずかに残しており、丸底気味の底部になるものと思われる。体部は比較的緩やかな角度で直線的に立ち上る。主な器面調整は内面横方向のハケ目、外面縦方向のハケ目。口唇部は強いヨコナデにより、わずかにくぼみをもつ。8の器面調整も7同様であるが、わずかに荒いハケ目が施されている。9・10は土師器小皿。9で口径6.3cm、器高1.6cm、底径3.3cm。10で復元口径9.8cm、器高2.9cm、底径4.0cm。双方とも外面底部は糸切り。11は土製品である。馬を表現したものか。頭部を欠く。現存長5.8cm、高さ4.8cm。

(3) S D016溝出土遺物 (Fig. 12)

12は土師器搦鉢、復元底径16.0cm。外面の調整は主としてハケ目とナデによる。13は陶器壺か。復元底径23.0cm。底部は上げ底気味。内面に施釉、14・15は土師器小皿。復元底径4.4から5.0cm。外面底部は糸切り。

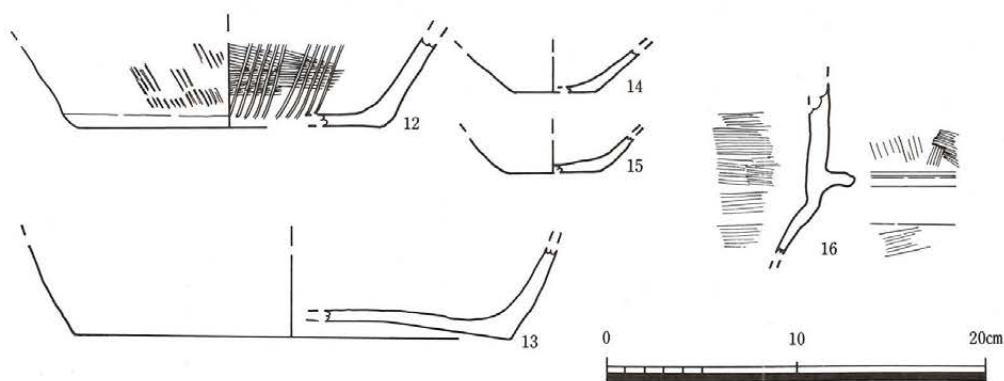


Fig. 12 S D016溝出土遺物実測図 (1/4)

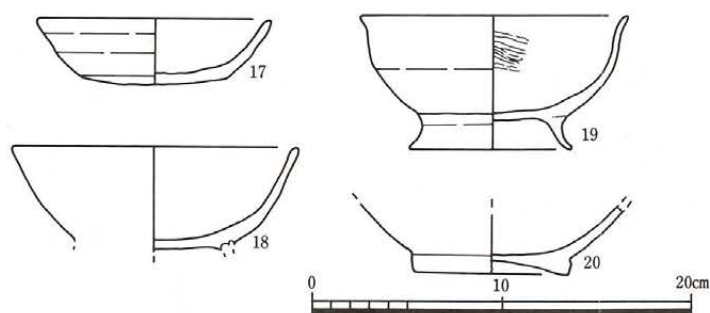


Fig. 13 S D021溝出土遺物実測図 (1/4)

(4) S D021出土遺物

(Fig. 13)

17は土師器杯。復元口径12.2cm、器高3.4cm、体部は、板目を有する底部から緩やかに内湾しながら立ち上る。18は瓦器碗。復元口径15.0cm。残存器高5.4cm。調整は主として外面ヨコナデ、内面ヨコナデのあとヘラミガキを施している。19は土師器高台付杯。復元口径14.0cm、器高7.1cm、復元底径8.5cm。ゆるやかに内湾する体部をもち、口縁部は短く外反する。器面は摩耗が進んでいるが、内面にヘラミガキが施されているのがかすかに観察できる。20は瓦器碗。復元口径8.0cm。

(5) S K 022・023・025・026土壙出土遺物

21は弥生土器甕。小片のため口径は復元不能。頸部外面に扁平な突帯を有し、主たる器面調整はハケ目とナデによる。22は土師器杯。復元口径13cm、器高約4.7cm。調整は主としてナデとヨコナデによる。23は土師質土器鉢。復元口径26.0cm。主な器面調整は横方向のハケ目とヨコナデ。24は注口を有する鉢。復元口径29.0cm、底径8.7cm、器高10.6cm。器面調整は主として回転ヨコナデ。25・26は土師器杯。復元口径13.0から14.0cm、器高3.1から3.6cm、底径10.0から10.2cm。底面は糸切り。27は青磁碗。底径6.1cm。施釉は内面と高台壘付部まで。

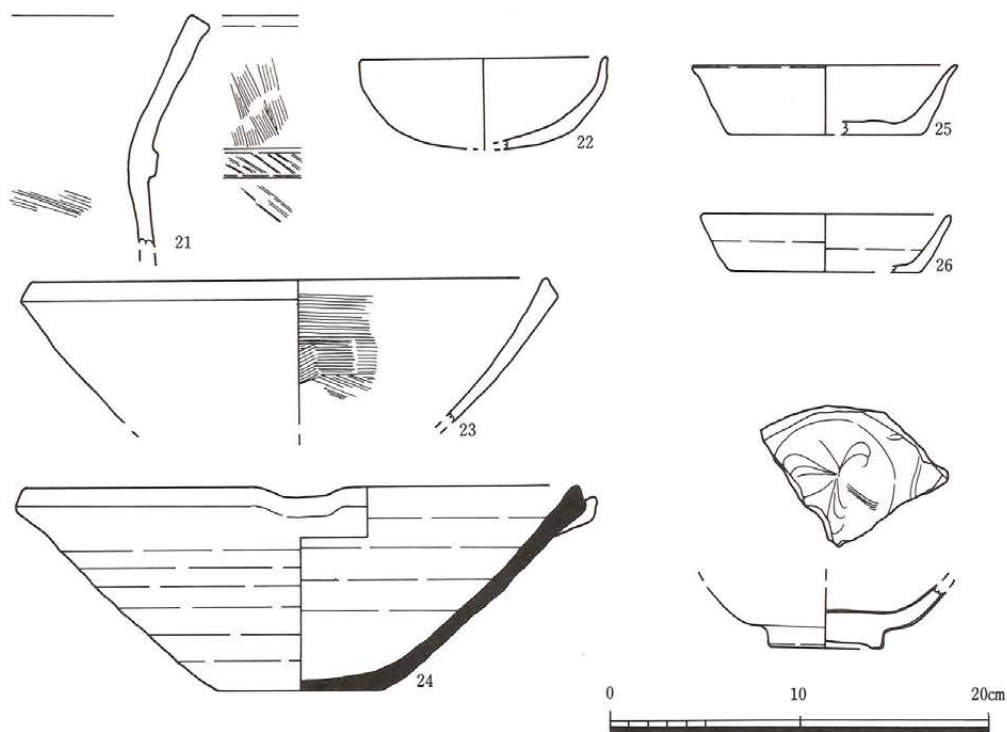


Fig. 14 SK022、023、025、026土壇出土遺物実測図（1/4）

(6) その他の遺構等からの出土遺物

28は土師器甕。口径19.6cm。口縁部は内湾しながら立ち上り、口唇部は平坦である。器面調整は外面ヨコナデ。ハケ目、内面ヨコナデ、ヘラケズリによる。胴部外面には2条の沈線が一周する。29は土師器小皿、底径4.0cm。外面底部に糸切り。30は土師器鉢、復元口径33.0cm。主な器面調整はハケ目。31は土師器碗。口径10.2cm、器高7.5cm。比較的厚い器壁をもち、口縁部は短く外反する。主な器面調整は、外面ハケ目、ナデ、内面ナデ、ヨコナデ。32は須恵器短頸壺。口径4.2cm。外面下半部は回転ヘラケズリ。33は須恵器坏身。口径11.2cm。短い反りをもち口唇部はわずかに外反気味に立ち上る。底部外面は回転ヘラケズリが施されている。34は土師器坏。復元口径12.0cm、底径8.4cm、器高3.1cm。底部外面には糸切痕有。35は瓦器碗、復元口径16.2cm、器高6.4cm。底径6.2cm。体部は大きく内湾しながら立ち上る。調整は内外面ともヘラミガキとナデによる。

3. まとめ

東高木遺跡は約500,000㎡の広がりをもつ遺跡として、佐賀県遺跡地図に記載され周知化が図られている。今回はその遺跡範囲内に2,484㎡の開発が計画され、内300㎡に遺構の存在を確認し発掘調査を実施した。

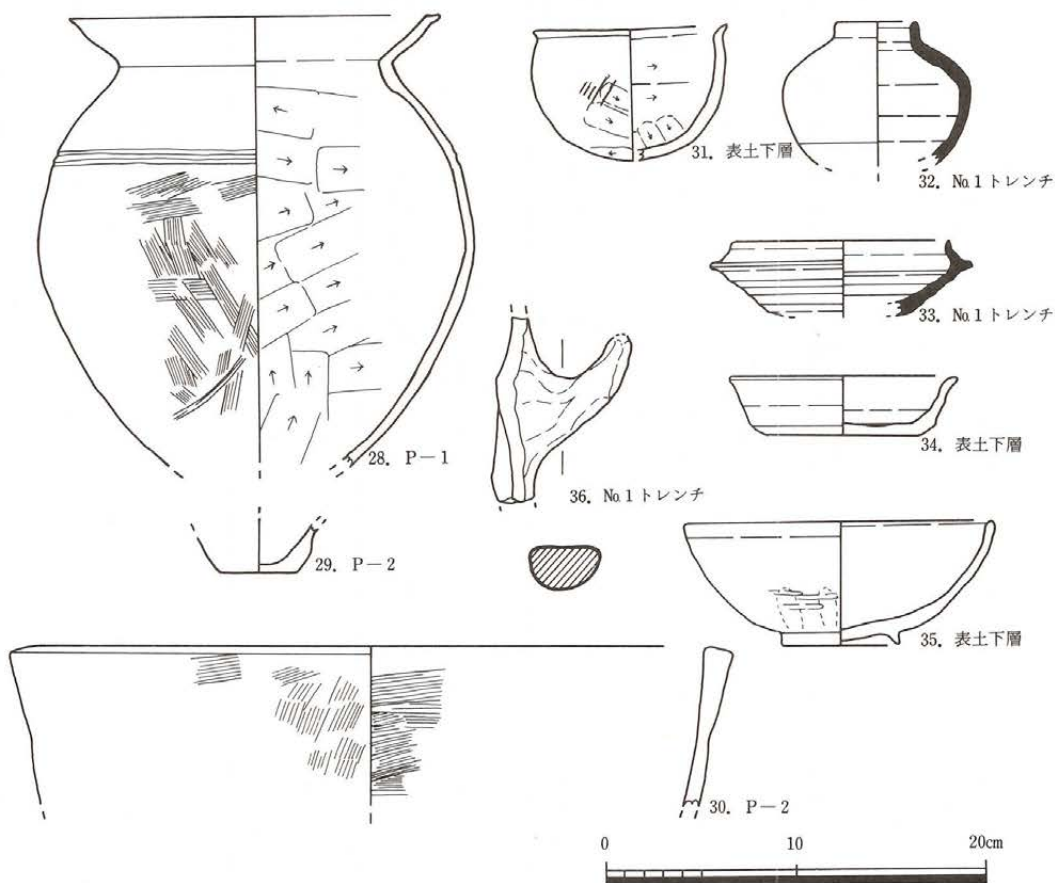
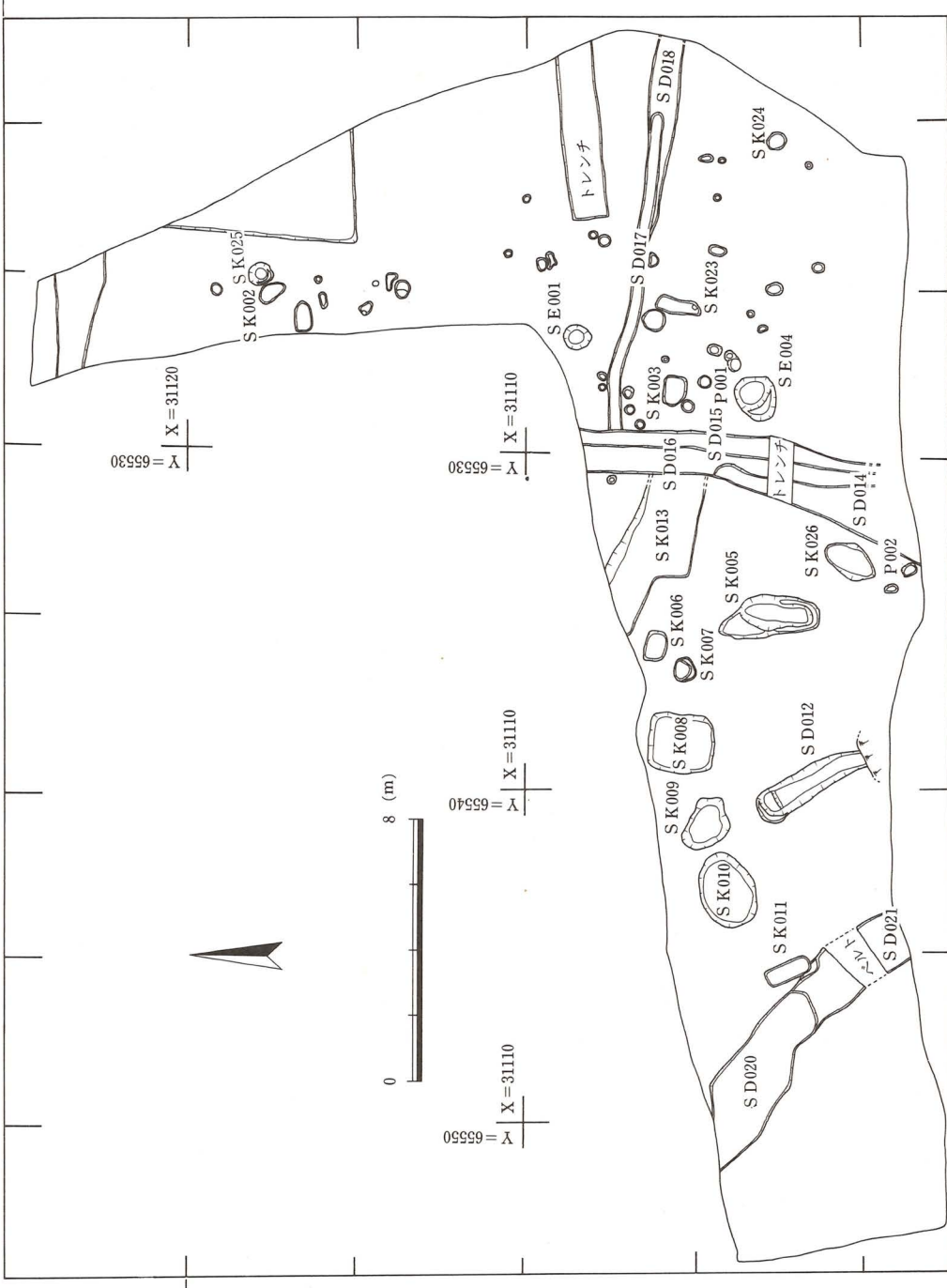


Fig. 15 その他の遺構からの出土遺物実測図（1/4）

今回の発掘調査はその調査面積が狭隘なため、遺跡の性格は明らかにできなかったが、調査成果としては次の事項がある。

1. S D012溝からは、須恵器（埴）、土師器（甕・高坏）が一括して出土しており、土器 編年を研究する上で重要な資料となる。
2. この地点は、北方の高木城跡と接していることや、昭和53年度、平成2年度の高木城跡確認調査結果から考えて、同遺跡の所在する基盤の広がり南端にあたるものと考えられる。今後の埋蔵文化財確認調査により、東高木遺跡の中央に所在する高木城跡の範囲がさらに絞り込めるものとする。



東高木遺跡遺構全体図 (S = I / 65)

東高木遺跡収蔵品目録 (略号HST)

佐賀市文化財調査報告書 第36集

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測番号	報告書掲載 Fig.番号	コンテナ番号	A・Bの別
HST-001	甕	土師器	古墳	95	口径18.0	丸底 器高28.1	SD012	1991.02	1-1	10-1	1	A
002	甕 口縁部	土師器	古墳	口縁の一部	口径21.0推	底径— 器高6.6残	SD012	1991.02	2-6	10-2	1	A
003	甕	須恵器	古墳	95	口径8.0	底径6.0 器高10.0	SD012	1991.02	2-4	10-3	1	A
004	甕	須恵器	古墳	体部のみ残存	口径—	丸底 器高15.7残	SD012	1991.02	2-5	10-4	1	A
005	高坏、坏部	土師器	古墳	坏部のみ95	口径17.0	脚径— 器高6.6残	SD012	1991.02	2-2	10-5	1	A
006	高坏、脚部	土師器	古墳	脚部のみ40	口径—	脚径17.0推 器高5.3残	SD012	1991.02	2-3	10-6	1	A
007	盤	瓦器		不明	口径44.0推	底径34.0推 器高6.3	SD015	1991.02	3-7	11-7	1	A
008	鉢	瓦器		不明	口径28.0推	底径— 器高5.6残	SD015	1991.02	3-8	11-8	1	A
009	皿	土師器		ほぼ完存	口径6.3	底径3.3 器高1.6	SD015	1991.02	3-10	11-9	1	A
010	皿	土師器		60	口径9.8推	底径4.0 器高2.9	SD015	1991.02	3-9	11-10	1	A
011	土馬	土製品		体部のみ残	最大長5.6残	最大高4.7残	SD015	1991.02	3-11	11-11	1	A
012	摺り鉢	瓦器		底部の一部	口径—	底径16.0残 器高4.3残	SD016	1991.02	4-12	12-12	1	A
013	鉢	陶器		底部の一部	口径—	底径23.0推 器高4.7残	SD016	1991.02	4-13	12-13	1	A
014	坏	土師器		15	口径—	底径4.4推 器高2.0残	SD016	1991.02	4-16	12-14	1	A
015	坏	土師器		15	口径—	底径5.0推 器高1.8残	SD016	1991.02	4-17	12-15	1	A
016	鉢	瓦器	室町	不明	口径—	底径— 器高9.0残	SD016	1991.02	4-15	12-16	1	A
017	坏	土師器	平安	50	口径12.2推	底径7.8 器高3.4	SD021	1991.02	7-26	13-17	2	A
018	高台付坏	黑色土器	平安	45	口径15.0推	高台径— 器高5.4残	SD021	1991.02	7-27	13-18	2	A
019	高台付坏	黑色土器	平安	40	口径14.0推	高台径8.5推 器高7.0	SD021	1991.02	7-28	13-19	2	A
020	壺底部	陶器	鎌倉	底部の一部	口径—	底径8.0推 器高3.5残	SD021	1991.02	7-29	13-20	2	A
021	甕、口縁の一部	弥生土器	弥生	口縁の一部	口径—	底径— 器高12.1残	SK022	1991.02	5-18	14-21	2	A
022	坏	土師器		15	口径13.0推	丸底 器高4.7	SK023	1991.02	8-34	14-22	2	A
023	鉢	瓦器		口縁の一部	口径26.0推	底径— 器高7.5残	SK025	1991.02	6-24	14-23	2	A

東高木遺跡 I種

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測図番号	報告書掲載 Fig. 番号	コンテナ番号	A・Bの別
HST-024	捏ね鉢	須恵器	鎌倉	25	口径29.0推 底径8.7推	器高10.6	SK025	1991.02	6-23	14-24	2	A
025	坏	土師器		30	口径14.0推 底径10.2	器高3.6	SK026	1991.02	7-30	14-25	2	A
026	坏	土師器		15	口径13.0推 底径10.0推	器高3.1	SK025	1991.02	6-25	14-26	2	A
027	碗	青磁	鎌倉	高台の一部	口径— 高台径6.0	器高3.0残	SK026	1991.02	7-31	14-27	2	A
028	甕	土師器	古墳	不明	口径19.6推 —	器高23.6残	P-1	1991.02	8-32	15-28	2	A
029	皿	土師器		底部のみ	口径— 底径4.0	器高2.6残	P-1	1991.02	8-35	15-29	2	A
030	鉢	瓦器		口縁の一部	口径38.0推 底径—	器高8.3残	P-2	1991.02	8-33	15-30	2	A
031	鉢	土師器		40	口径10.2 丸底	器高7.0	表土下層	1991.02	5-19	15-31	2	A
032	短頸壺	須恵器	古墳	不明	口径4.0推 底径—	器高7.5残	No.1トレンチ	1991.02	5-20	15-32	2	A
033	坏	須恵器	古墳	15	口径11.2推 底径—	器高4.0残	No.1トレンチ	1991.02	5-21	15-33	2	A
034	坏	土師器		65	口径12.0推 底径8.4推	器高3.1	表土下層	1991.02	9-37	15-34	2	A
035	碗	瓦器	鎌倉	30	口径16.2推 高台径6.2推	器高6.4	表土下層	1991.02	9-36	15-35	2	A
036	把手	土師器		不明	長径3.7 短径2.3		No.1トレンチ	1991.02	5-22	15-36	2	A

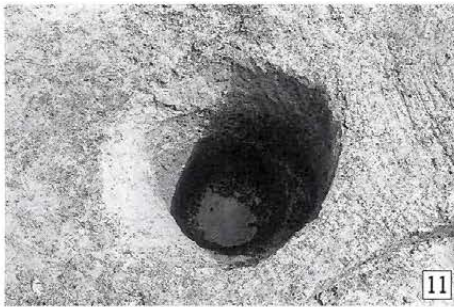
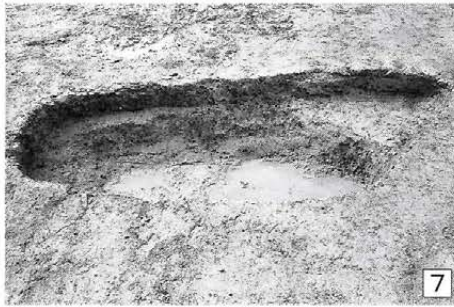
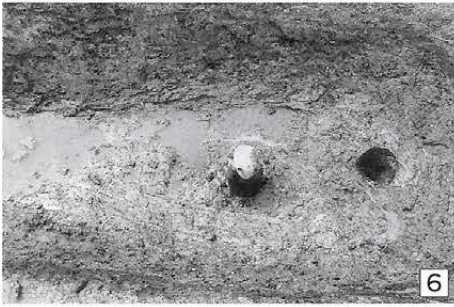
東高木遺跡 I種

地区名	種別	時代	遺構名	遺構	名	出土年月	コンテナ番号	袋数	備	考
HST	弥生土器、土師器破片		SK002、SE004、SK005、SK009							
			SK010、SD012、SD015、SD016							
			SD017、SD021、SK022、SK023							
			SK024、SK025、SK026、P-1							
			P-2、No.1トレンチ、表土下層				3	20袋		

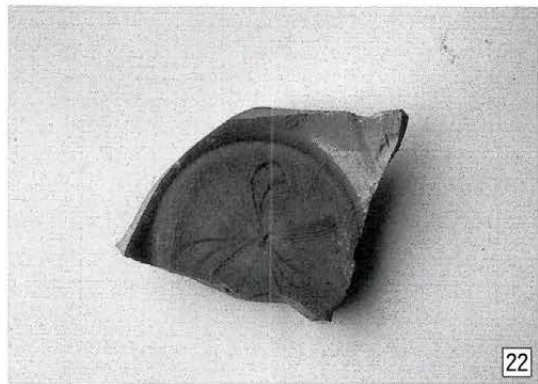
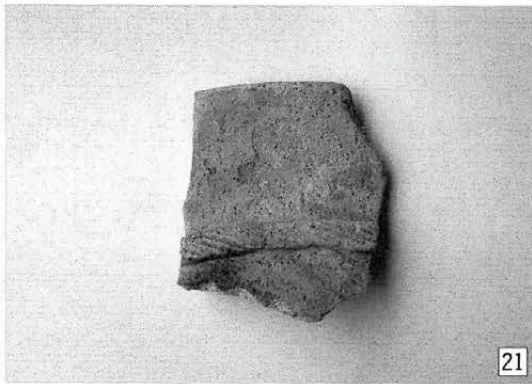
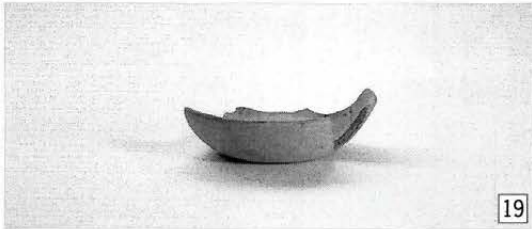
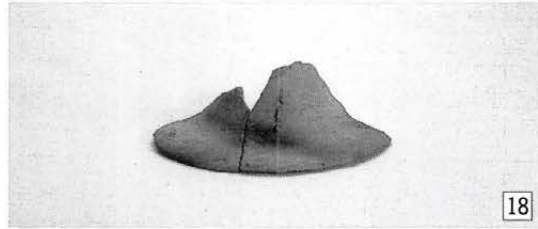
東高木遺跡 II種



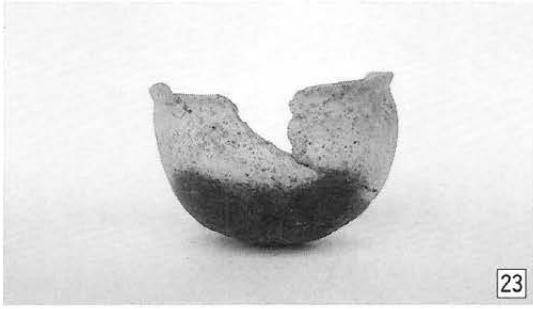
1. 調査区全景
2. 調査区東半
3. S D012周辺



- | | |
|-----------------|--------------|
| 4. S D012溝 | 11. S K025土壤 |
| 5. S D012遺物検出状況 | 12. S E004井戸 |
| 6. 同上 | |
| 7. S K005土壤 | |
| 8. S K008土壤 | |
| 9. S K010土壤 | |
| 10. S K022土壤 | |



1~6, S D012出土、17・19, S D021出土、21, S K022出土、27, S K026出土



- 31. No.1 トレンチ出土
- 32. No.1 トレンチ出土
- 36. No.1 トレンチ出土

佐賀市文化財調査報告書第36集

東高木遺跡

平成3年12月28日

発行 佐賀市教育委員会
佐賀市栄町1番1号

印刷 (有)昭和堂印刷
佐賀市神野西4-1-32